

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

さっぽろ  
市議団ニュース

<第3回定例会>

2018年10月25日

No. 196

日本共産党札幌市議団 事務局

tel 211-3221 / fax 218-5124

## 都心アクセス道路—上下分離案の時短効果は「後に国が明らかに」、交差点改良も「現時点ではフラット」

村上ひとし議員が質問

日本共産党の村上ひとし議員は22日、決算特別委員会で都心アクセス道路について質問しました。札幌市は、創成川通の機能強化＝都心アクセス道路の必要性を強調し、地下構造と高架橋、また、交差点改良の3案が示されてきましたが、新たに地下構造と高架橋が混合する上下分離案がだされました。

村上議員は、この新たな案について、都心からの北上ルートは北27条付近で地上にできる構造で札幌北ICに直結しないなど様々な問題があるとのべ、「これまで市民に示してきた情報と相違ないのか」「夏は8分短縮とってきたが違いがでるのではないのか」「地下からの出入口など詳細な道路設計が決まらなると交通量予測や効果も明らかにならないのではないのか」とたどしました。

米田総合交通計画部長は、国の計画段階評価に入ったところで「まだ出入口など決まっていず詳細なデータはこの段階では算出しない。交通量や時間短縮効果は計画段階評価の後に国の方で明らかにしていく」と答弁。村上議員は「そうであれば、この間、市民に示してきた情報は行き過ぎではないか」と批判し、「新たな道路整備が本当に必要かどうかを中心に市民意見を集めるのがみなさんのやることではないか。情報提供のあり方には問題があったと思うがどうか」とたどすと、米田部長は「完璧かどうかは評価があると思うが、私どもなりに一生懸命やってきた」とのべました。

北海道開発局が沿線住民や周辺市町村に5万人アンケートを実施することについて、村上議員は、当初の設問が小委員会の検討で修正されたことをうけ、「アクセス道路が必要かどうかという項目はあったのか」とたどすと、米田部長は「そのような設問はないと聞いている」と答弁。村上議員は、「アンケート調査（案）」の設問が「都心部～札幌北ICの所要時間」「札幌北ICの渋滞解消」「物流交通の港湾空港と札幌都心部との定時性」などを並べ、どれを「重視すべき」と問うもので、「結局、本市が市民に提供してきた情報とほぼ同じ内容ではないか」「道路を作りたいという意向が強く示されたものだ」と批判しました。

そのうえで、村上議員が「4案が示されているが、現時点でどの案が効果的という考えはあるのか」と聞くと、米田部長は「いずれも有効な施策」といい、「それでは4案それぞれ同じ状況で、フラットであると考えて良いのか」とたどすと、米田部長は「現時点ではフラットであると考えている」とのべました。

村上議員は、「そうであれば交差点改良の利点や効果を明らかにして市民に情報提供すべき」「どの資料を見ても地下と高架が中心だが、これから交差点改良の利点や効果を丁寧に発信していくということか」とたどすと、米田部長は「ご意見があることは国にお伝えするし、そういう意見も踏まえてオープンハウスなどを開催し、説明に努めたい」とのべました。

村上議員は、「創成川通は、混雑度は高くないとってきたが、交差点改良であれば賛成できる」、今後の「オープンハウスやパネル展では交差点改良の利点についても強調してフラットな議論ができるようにしていただきたい」と求めました。